

療養患者さまの作品展 8/15(水)より開催



8月15日(水)より亀田クリニック1階ロビーにて、今年も「自宅で療養する患者さまの作品展」を開催いたします。

同作品展は、病気やけがにより体が不自由になっても、家族の協力やヘルパーの支援などを受けながらひたむきに療養を続ける人たちの応援しようと、地域医療支援部が2012年から取り組んでいる企画で、今年で7回目を迎えました。

今回は麻痺した手に筆をくりつけ描いた絵画や、日常の療養生活を表現した川柳、短歌、楽しみで始めた折紙や手芸など、身近なものを題材とした作品を前半・後半の2回に分けて展示いたします。亀田クリニックを受診された際は、ぜひお立ち寄りください。

◆前半展示：8月15日(水)～9月10日(月)

◆後半展示：9月12日(水)～10月5日(金)

bayfm「MEDICAL UPDATES」

春原佑紀さんがラジオパーソナリティーを務めるベイエフエムの午後のワイド番組『it!!(イット)』では、毎週火曜日午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

8月は亀田グループで看護師の育成を担う学校法人鉄蕉館 亀田医療技術専門学校、亀田医療大学の教職員が出演し、看護専門学校の魅力や、地域医療と看護、少子化社会における助産師の役割、国際看護とグローバルというテーマでお話します。

お盆期間中(8/12～16)の 高速バス(アクシー号)の運行について

8月12日(日)～16日(木)のお盆期間中、高速バス(東京―鴨川線「アクシー号」、千葉―鴨川線「カピーナ号」)は全便、安房鴨川駅発着となります。安房鴨川駅～亀田病院間は運休となるため、当院への乗り入れはありません。ご利用の際はどうぞご注意ください。



8/25(土) リハビリ市民講座

テーマ:靴とインソール



足にあった靴選びをしていますか？ 8月25日(土)午後1時(12半開場)から、「靴とインソール」をテーマに亀田クリニック5階リハビリセンター内研修室にて「リハビリ市民講座」を開催いたします。(参加費無料、定員50名〔当日先着順〕)

当院リハビリテーション室の小山 稔理学療法士が講師となり、正しい靴の選び方や履き方、インソールについてご紹介いたします。正しい靴の履き方も実演しますので、当日は紐靴(ひもで結ぶタイプの靴)でご参加ください。

全国から152名が参加!!

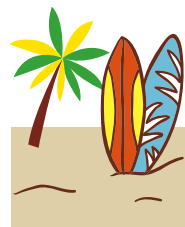
Kameda Cup 2018 in Kamogawa



医療従事者のためのサーフィン大会「Kameda Cup 2018 in Kamogawa」(主催:亀田メディカルセンター／後援:鴨川市)が7月15日(日)鴨川市東条海岸マルキポイントにて開催されました。

今大会も、千葉県を中心に北は北海道から南は鹿児島県まで、全国から152名の医療従事者が集まり、各クラス白熱した試合が繰り広げられました。

また競技のほかに、プロサーファーによるエキシビジョンや親子ビーチサン飛ばし大会、タヒチアンダンスや地元バンド ジャスティンスタッフライブ、フラやヒップホップダンスなどのステージイベントも行われ、会場を盛り上げました。そのほか、地元・鴨川の名店が勢ぞろいした屋台も出店するなど、終日多くの来場者で賑わい、盛況のうちに終了しました。



ちょっとためになる こつしょうしょう ついたいこっせつ 骨粗鬆症と椎体骨折の話

脊椎脊髄外科
久保田基夫

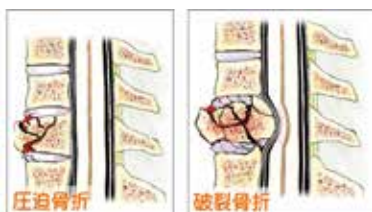
第10話 もろい「骨」にどう対応するか？

再び遅発性神経麻痺について

骨折が椎体前壁にとどまる(旧圧迫骨折)うちは保存治療やBKP(セメント治療)などで対応することができますが、骨折線が椎体後壁に及ぶ(旧破裂骨折)と神経症状が出現し、治療はものすごく難しくなります。背骨が体重を支えられなくなるため、金具を入れての固定術が必要になりますが、もともと骨が弱いために金具が骨を壊してしまう可能性があるためです。またいったん神経症状が出てしまうと、手術を行ったとしても症状が改善するとは限りません。

70代後半の女性、発症前はまったく元気でした。第2腰椎骨折による遅発性神経麻痺で入院されました。下位胸椎(T11)から仙骨までの固定術を行いました。固定した胸椎(T11、矢印)がスクリーで壊れてしまい、上位胸椎(T3)まで固定術を延長しました。これは高齢者にとっては大変な手術です。

何度も繰り返すようですが、骨折は早めに治療を行うのが重要です。いよいよダメになるまで待ってはいけません。

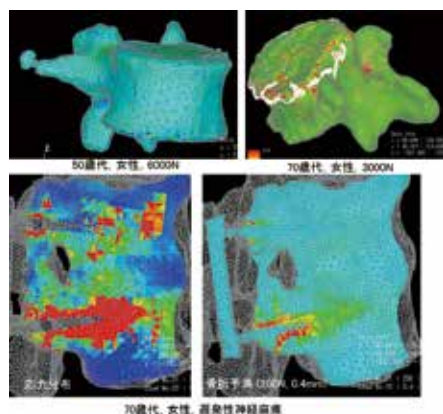


力学的研究(バイオメカニクス)について

いったい私(個々の患者さま)はどのくらい骨が弱くて、どのように気をつけたら良いのでしょうか？ もちろん患者さままで実験することはできませんので、「折れてみなければ分からない。折れないように注意して下さい」というのがこれまでの状況でした。

当院では個々の患者さまについて骨の強度や骨折予測などができるプログラムを導入いたしました。世界でも最先端の技術です。あくまでコンピューターによる予測であり、実際に骨を壊すわけではありません。解析に時間がかかりますので、外来ですぐにというわけにはいきませんが、入院された患者さまのCT画像をもとに解析を進めているところです。

実際の解析結果を見ていただきます。50歳代女性の椎体は6000Nの加重ではまったく壊れていません。ところが右上70歳代女性(YAM 58%)の患者さまの椎体は3000Nの加重で要素の18%が破壊されるという結果でした。骨の周囲に白や赤の亀裂が入っているのがわかると思います。驚くことに750Nの加重(ほとんど座っただけ)で骨折が始まります。骨粗しょう症の骨は予測以上に骨折を来しやすく、日常生活動作でも少しずつ骨折が進行すると考えた方が良さそうです。



下段は先に紹介した患者さまの解析です。治療前のCTスキャンをもとにスクリーを挿入したときの応力(どのくらい力がかかるか)や骨折の予測を行ってみました。スクリー周囲に応力が集中すること(真っ赤になっていますね)、スクリーがわずか0.4mm動くだけでスクリー周囲から骨折が始まることなどが分かります。

現在は治療のすんだ患者さまの解析を行い、実際の臨床経過と比較をしている段階ですが、力学的解析をもとに治療方針を検討したり、日常生活の注意をお話しできる日も近いと思います。

医師紹介

あべ 安部
よしあき 佳亮 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①血液・腫瘍内科
- ③サッカー鑑賞
- ④よろしくお願いします



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>